



千葉県市原市 姉崎地区 歴史の旅マップ

姉崎地区には貝塚・古墳・神社仏閣・戦国城跡・石仏・鎌倉街道・久留里街道など貴重な文化遺産が数多く残っており、上総国の繁栄を偲ばせます。いちからは歴史のミュージアム構想の一環として、「ふるさと姉崎」を多くの人に紹介するため『歴史の旅マップ』をお届けします！

鎌倉街道 上総路の啓発活動 平成二八年

好評につき「旅マップ」を改訂して増刷
令和2年3月に、この「歴史の旅マップ」初版を700部発行。多くの方に好評をいただき、増刷版を発行するに至りました。利用者からの要望も取り入れ、前作マップの内容を一部改定して作成。地域の企業等からもご支援をいただき発行しています。

石枕
二子塚古墳出土

2020年 千葉県立姉崎高等学校
作成 日本史選択者及び有志生徒
ふるさとを愛する会

おすすめ散策

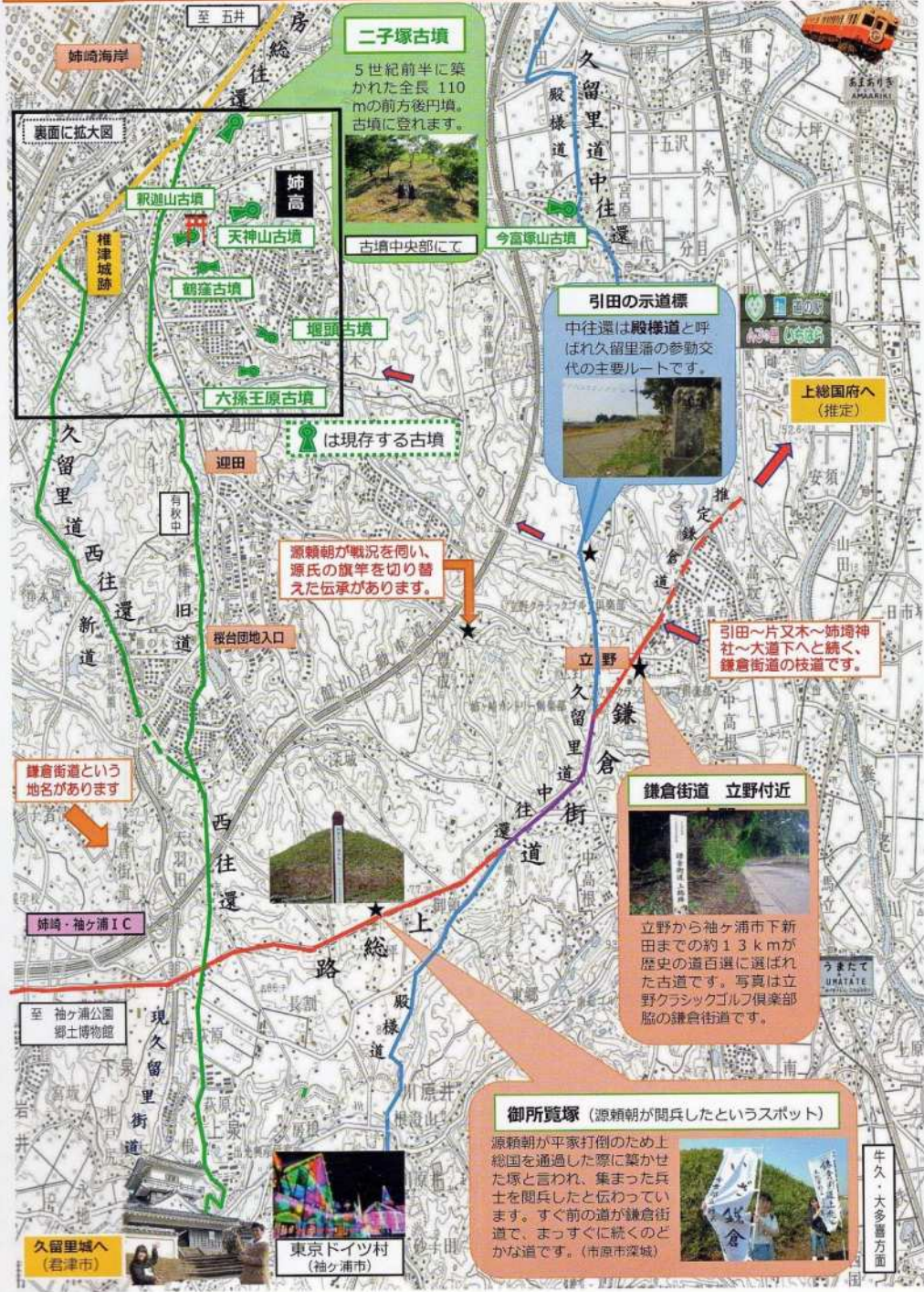
千葉県指定史跡「椎津城跡」
足利氏・武田氏・里見氏・北条氏らが争奪をくり返した中世の城郭で、房総の戦国史において重要な城跡です。
市内最大級の城跡で、主郭を囲む土塁や虎口(こぐち)、曲輪群(くるわくん=城の内外を土塁、石垣、堀等で区画した区域の名称)が残っています。町内会の方々が「富士山の見える城跡」として整備を進めています。この活動と連携して、私たちが看板や標柱を作成・設置しています。

久留里藩が参勤交代で利用した古道「久留里道 西往還」
江戸から久留里城に通じる道を総称した久留里道は、主に3本のルートがあります。

まず東往還は八幡宿から牛久を通って養老深谷方面から、西往還は姉崎・椎津から久留里へと向かいます。五井から村上、今高、立野を通る中往還は久留里藩の主要な参勤交代路となり、「殿様道」と呼ばれました。
姉崎・椎津を通る西往還は3年間ほど利用されたと伝わっています。新道・旧道の2つがあり、いずれも房総往還を五井から姉崎・椎津へ下り、榎台～上泉～高谷～久留里へと続くルートです。
また房総往還の木更津から久留里へのルートもあり、木更津港から海路江戸へと物資を運ぶための産業道路でした。

姉崎周辺の歴史マップ

※注 この地図は縮尺・縦横比を変更しています。
国土院地形図「姉崎」5万分の1より編集・作成



おすすめ散策

文化庁歴史の道百選 鎌倉街道上総路
文化庁が歴史の道百選に指定している鎌倉街道上総路は、市原市の立野から袖ヶ浦市の下新田に至るルートです。ほぼ市原市と袖ヶ浦市の境界上に結ばれています。周辺には立野(あご)鎌倉街道、袖ヶ浦市川原井字鎌倉通、袖ヶ浦市蔵波字鎌倉街道など、約10kmの間に鎌倉街道を伝える地名が点在します。



いざっ 鎌倉!
鎌倉まで最短距離と最短時間で結ぶために、関東地方の鎌倉街道に見られる「直通し」の工法が用いられ、古代道や中世の古道の特徴である直線的な道です。このルート周辺には、八幡神社、道標、御所覽塚、切通し、土塁などが現存しています。

「御所覽塚」
御所覽塚の前に立つ標柱には次のような説明があります。
「治承4年(1180)に源頼朝が平家打倒のため上総国を通過した際、この塚を築かせ、塚上で武士たちを閲兵したとの言い伝えがある」と書かれています。
この塚の前を通る道は、古代には都と上総地方を、中世には鎌倉とを結ぶ重要な道であったと推定できます。
武士たちが「いざ鎌倉」と駆け抜けた古道を、ぜひ歩いてみませんか？

姉崎 歴史の旅マップ



この道はかつて房総往還と呼ばれ、市川から安房方面へとつながっており、近世においては参勤交代や物流などの重要な道でした。

戦前、この周辺は遼浅の海でしたが、戦後に埋め立てられました。



二子塚古墳
は現存している古墳等
●は徒歩散策コース

姉崎古墳群

養老川流域には約300基もの古墳が分布しています。姉崎地区には、天神山古墳、二子塚古墳、今富塚山古墳などの全長100mを超える古墳群があり、南関東でも最大規模の古墳群です。これらは4～7世紀までの古墳で、前方後円墳11基、前方後方墳2基、円墳20基、方墳1基が確認されていて、私たちの学校から徒歩15分以内の場所にあります。

姉崎地区は上海上国造（かみのうなかみのくにのみやつこ）の支配地で、古墳群は一族の墓と考えられます。姉ヶ崎駅東口よりバスが出ており散策できます。姉崎公民館を出発すると半日コースで古墳巡りができます。
(参考 市原市教育委員会)



- ① 二子塚古墳 (県指定史跡)**
5世紀前半に造られた、低地に位置する大型前方後円墳(全長106m 高さ8～9m)です。首飾・銀製耳飾など豊富な副葬品が出土し、円筒埴輪が検出されました。発見された「石枕」は国の重要文化財です。のちの上海上国造に連なる人物の墓と考えられます。
 - ② 天神山古墳 (県指定史跡)**
全長130メートルで、古墳時代前期の4世紀前半に造られた姉崎古墳群を構成する最大規模の前方後円墳です。名前は前方部と後円部の境にある天神(菅原道真)を祀った社に由来します。
 - ③ 釈迦山古墳**
姉崎神社のすぐ脇にある小高い山が釈迦山古墳です。全長93mで原形をよく保っています。4世紀中ごろの築造です。
 - ④ 鶴窪古墳 (市指定史跡)**
6世紀前半に造られた全長46mの前方後円墳で、円筒埴輪が配列されていました。
- おすすめ散策 (半日) コース**
 姉崎公民館 ⇒ 釈迦山古墳 / 姉崎神社 ⇒ (出発) 鶴窪古墳 ⇒ 天神山古墳 ⇒ 二子塚古墳 ⇒ 姉崎公民館 (帰着)

富士山が見える城跡 椎津城跡 (県指定史跡)

戦国時代の城郭跡で、武田氏・里見氏・北条氏などの勢力の拠点となりました。北条氏の築城に見られる薬研形の内堀があり、滝沢馬琴の「南総里見八犬伝」では里見氏につながりのある城として登場します。

天正十八年(1590年)、豊臣秀吉の北条攻めにより攻略されるまでは常に戦略上の要衝でした。水陸交通の要衝に位置し、北条氏と里見氏の間激しい攻防戦が繰り広げられた、房総の戦国史を語る上で重要な城郭です。高さ1mを超える土塁、深さ2m長さ50mに及ぶ空堀が残されており、城郭の特徴を把握できます。

椎津町内会が「富士山が見える城跡」として整備をすすめており、私たち看板・標柱の作成に協力しました。姉ヶ崎駅東口よりバスで八坂神社前下車徒歩1分、アネッサからは半日コースで久留里道西往還・八坂神社・瑞安寺なども散策できます。

写真上 椎津城の虎口(こぐち=城郭における狭い道)にて
 写真下 町内会へ看板等の贈呈式にて(2019年3月贈呈)



地域に愛され続けてきた式内社 姉崎神社

景行天皇40年、日本武尊(やまとたけるのみこと=記紀における英雄伝説の主人公)が東征の折、走水(はしりみず)の海(浦賀水道)で嵐に遭い、お妃の弟橋姫(おとたちばなひめ)の犠牲によって無事上総の地に着かれたといわれます。この宮山台において、お妃を偲び、かつ舟車の航行安全を祈願し、志那斗弁命(しなとべのみこと=風の神)を祀ったのが創始と伝えられています。

その後、父である景行天皇がこの地を訪れて日本武尊命の霊を祀り、さらにこの地を支配していた上海上国造が天児屋根命、塞三柱神、大雀命(16代仁徳天皇)を合祀されたと伝わっています。また、延喜式神名帳(927年成立)にも名を残しています。

天慶3年(940)には平将門の乱を平定するための祈願が行われ、治承4年(1180)には源頼朝が平氏追討の祈願をしてから、流鏑馬の神事が行われるようになったと伝えられています。祭神の志那斗弁命は、伝説によれば、約3km北にある島穴神社に祀られている志那都比古命の妃で、夫の帰りを待たがいつまでたっても帰らず、「待つ」と「松」の読みが同じなので松を嫌ったということ、境内に松はありません。また、周辺では正月に門松の代わりに門神を飾ります。

巫女を務めました
(参考 姉崎神社HPより)

